

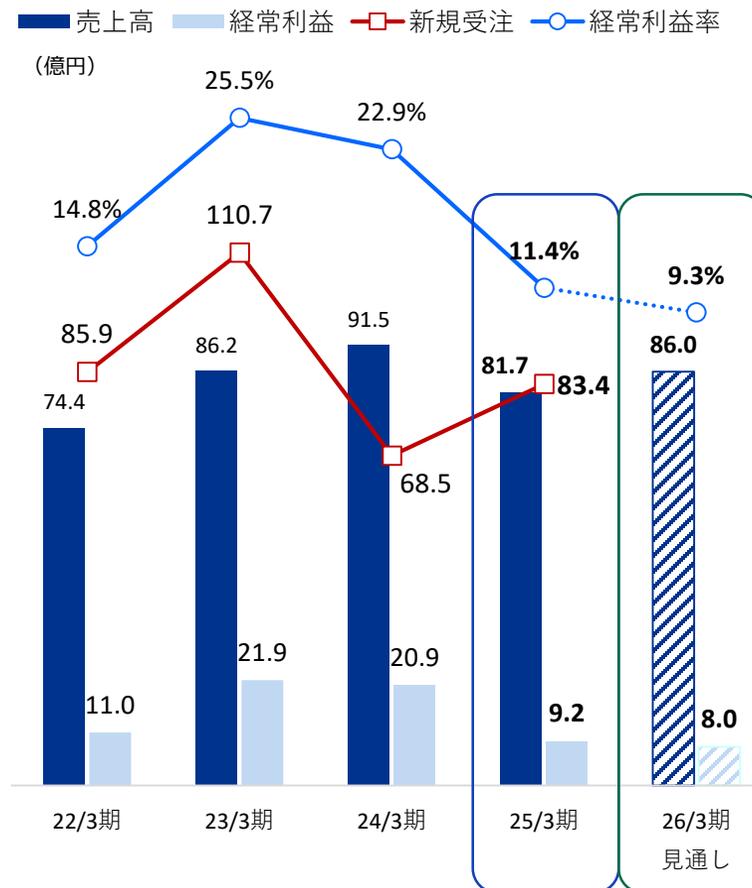
2025年3月期 決算補足説明資料・中期経営計画

2025年5月13日

証券コード：6568

 神戸天然物化学株式会社

- 2025/3期は大幅減収減益。22/3期以降の急速な需要増の一服に加え、滞留在庫処分などを断行
- 2026/3期は増収減益見通し。受注回復で増収となる中、設備増強等の先行投資負担により、減益継続の見込み
- 中期成長シナリオを策定。まずはトップラインの成長加速スキーム構築に注力し、28/3期には売上高120億円(CAGR+13%)を目指す



2025/3期実績

2026/3期見通し

売上高
前期比△**10.7%**

売上高
前期比+**5.1%**

調整後EBITDA*
前期比△**38.6%**

調整後EBITDA*
前期比+**0.9%**

中長期事業戦略（成長シナリオ）策定

高成長・高付加価値を追求する
化学品製造受託企業を目指す姿に設定
まずはトップラインの成長加速スキーム構築注力
28/3期には売上高**120**億円
(CAGR+**13%**)を目指す

*調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分
これまで開示の実質EBITDAも、上記の定義に基づき遡及修正

1. 2025/3期決算概要

- 前期比減収減益。5割を超える経常減益は5期ぶり。ただし、ほぼ従来見通しの範囲内の着地
- 分野別には、これまで成長を牽引していた医薬が端境期を迎え、大幅減収。一方、これまで停滞していた機材はディスプレイ関連の需要回復により2ケタ増収。機材売上高は過去最高を更新
- 損益面では、売上減少が影響。生産能力拡大に伴う人件費増や研究開発費の増加も重石となり、経常利益率は11%まで低下

(百万円)	2023/3期	2024/3期	2025/3期				
			見通し (2025/2/14)	通期	見通し差異	前期差	前期比
売上高	8,628	9,154	7,850	8,178	+328	△975	△10.7%
機能材料	2,832	2,714	2,950	3,002	+52	+288	+10.6%
医薬	4,259	4,609	3,500	3,508	+8	△1,100	△23.9%
バイオ	1,536	1,829	1,400	1,667	+267	△162	△8.9%
営業利益	2,163	2,081	750	771	+21	△1,309	△62.9%
経常利益	2,199	2,094	900	929	+29	△1,165	△55.6%
経常利益率	25.5%	22.9%	11.5%	11.4%	△0.1pp	△11.5pp	
当期純利益	1,542	1,493	639	737	+98	△755	△50.6%
調整後EBITDA*	2,914	2,867	1,745	1,761	+16	△1,106	△38.6%
調整後EBITDAマージン	33.8%	31.3%	22.2%	21.5%	△0.7pp	△9.8%	

* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

四半期経営成績

- 4Q業績は例年通り、一年で最も売上の集中する構造に変化なし。ただし、その偏重度合は例年よりも低く、結果として4Qの業績牽引力は鈍いものに

- 4Qの業績拡大が限定的となったのは、医薬の4Q売上高が大型案件一巡などで伸び悩んだため。バイオ・機材はほぼ例年の水準と変わらず

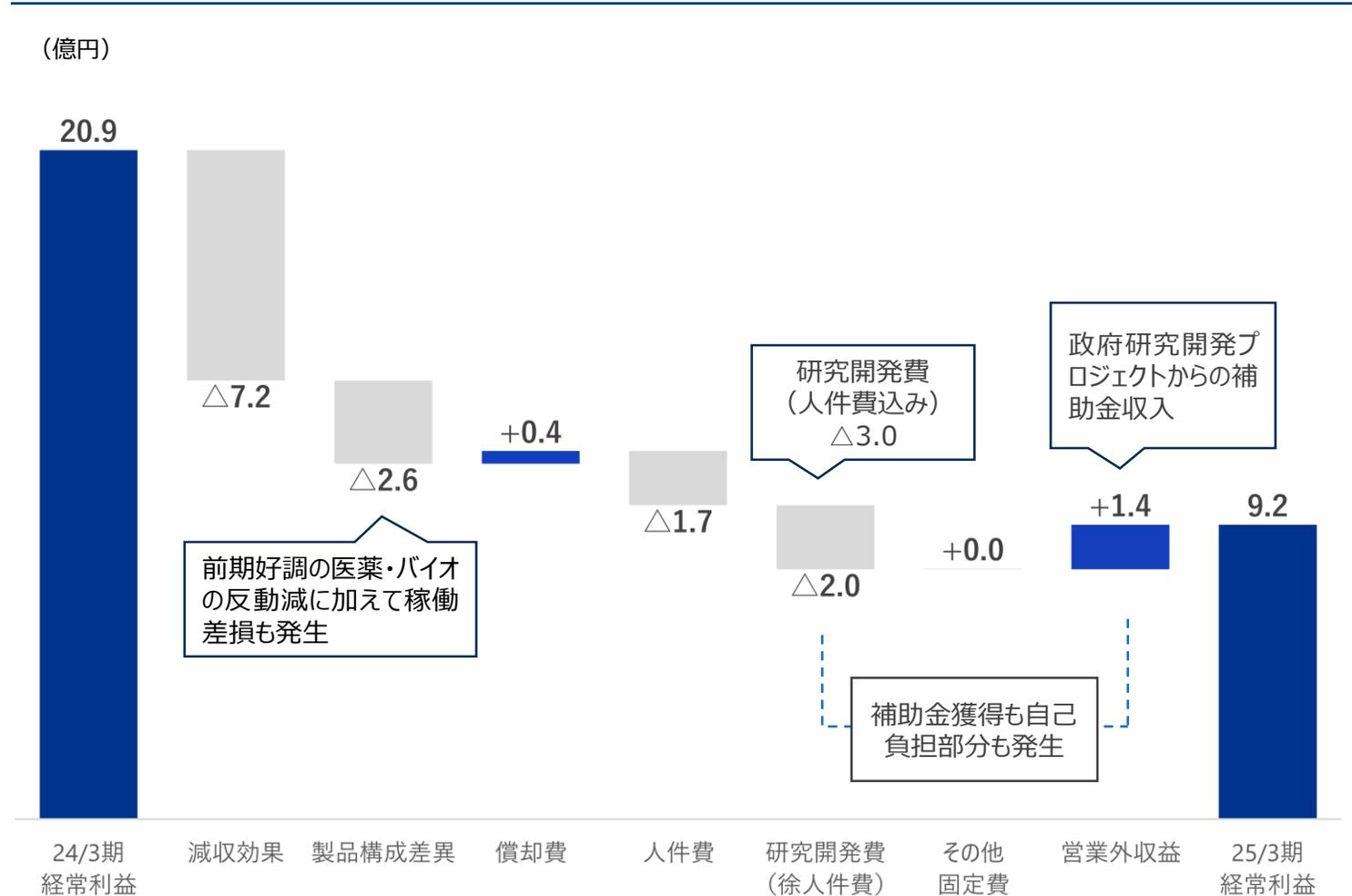
- その結果、利益率が大幅に低下。例年3割を越えた経常利益はそのおよそ半分の水準に

(百万円)	2023/3期				2024/3期				2025/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,222	1,503	2,037	3,864	1,779	1,593	1,812	3,969	1,405	1,916	1,932	2,924
機能材料	712	603	832	682	610	576	723	804	798	769	665	768
医薬	284	553	886	2,533	923	673	535	2,476	395	703	927	1,482
バイオ	224	346	317	647	244	343	553	688	211	442	339	673
営業利益	79	342	459	1,282	404	223	222	1,230	85	△8	246	448
経常利益	81	363	466	1,287	408	227	228	1,230	87	△0	398	445
経常利益率	6.6%	24.2%	22.9%	33.3%	22.9%	14.3%	12.6%	31.0%	6.2%	△0%	20.6%	15.2%
当期純利益	51	256	320	914	286	154	154	897	56	△1	283	398
調整後EBITDA	248	520	657	1,488	590	419	410	1,447	283	200	611	665
調整後EBITDAマージン	20.3%	34.6%	32.3%	38.5%	33.2%	26.4%	22.6%	36.5%	20.1%	10.5%	31.7%	22.8%

* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

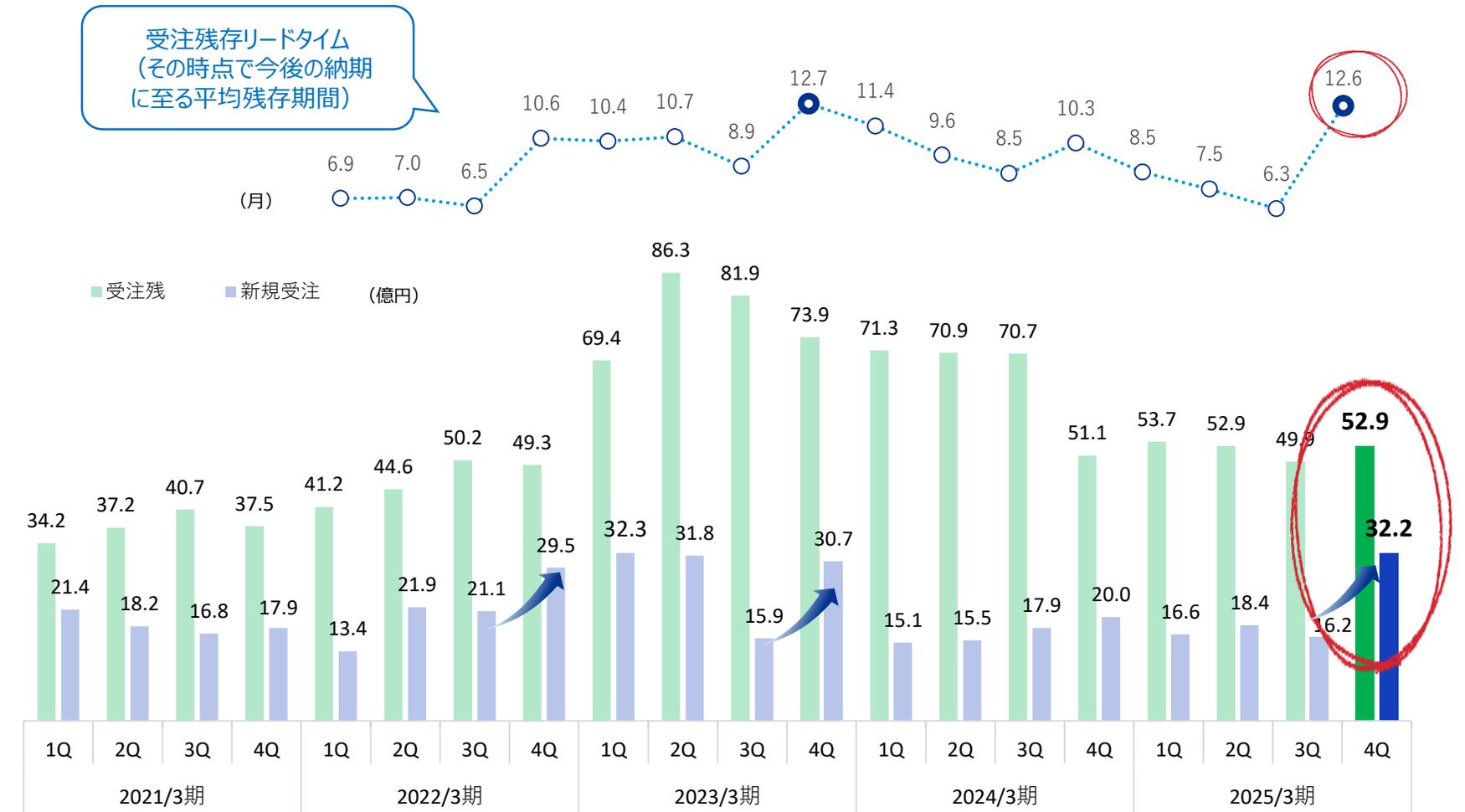
- 大幅経常減益の主因は大型案件一巡による減収影響。稼働差損や滞留在庫処分なども加わり、概して厳しい展開に
- 一方、コスト面では健闘。生産能力拡大に伴う人件費増や研究開発費の増加はあるも、当初想定していた水準には至らず。営業外収入には政府研究開発プロジェクトからの補助金収入も加わり、売上影響以外の減益インパクトは限定的に

2025/3期累計経常利益 増減益要因分析

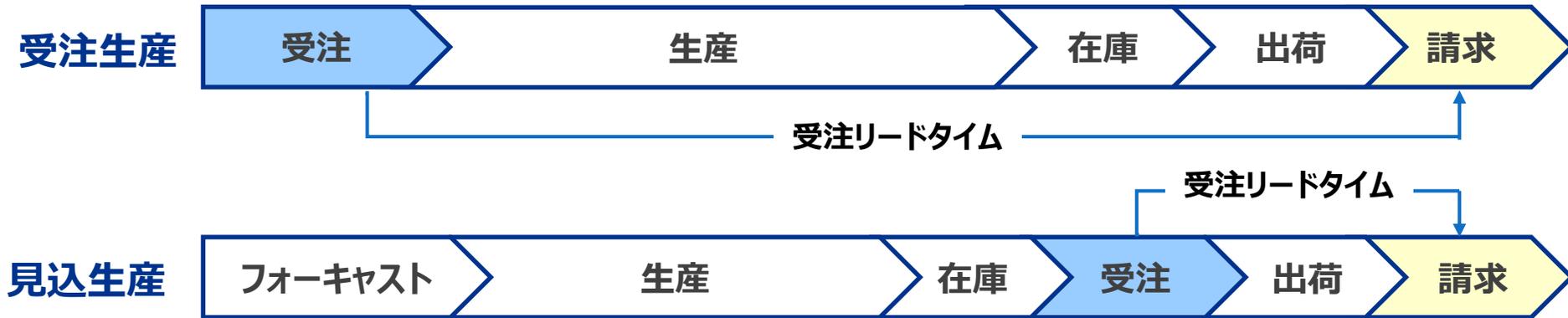


- 4Qの新規受注は32億円超と急回復。四半期別推移では11四半期ぶりの高水準となり、23/3期1Qの過去最高に近接。4Qで大幅拡大するこれまでのパターンが復活
- 新規受注増にも関わらず、受注残はほぼ横ばい。これはリードタイムの短い機材などの案件が売上計上される一方、足の長い医薬などの案件の受注が積み上がったもの。これに伴い、受注残存リードタイムは一気に長期化。医薬領域は今後の回復に目処と認識

新規受注、受注残及び受注残存リードタイムの推移



※顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず



受注リードタイム指数 (過去4年間平均)

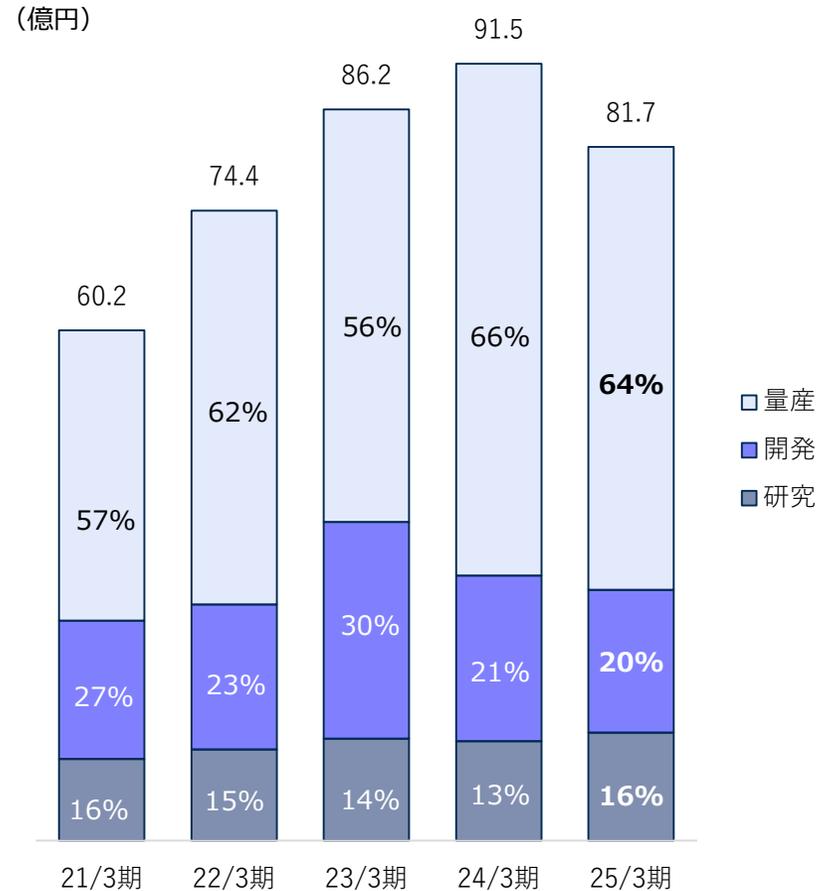
	受注生産	見込生産
機能性材料分野	4.5	1.0
医薬分野	7.3	3.0
バイオ分野	2.6	1.0

* バイオ分野の見込生産を1.0として指数化

- ✓ 受注生産のリードタイムは見込生産と比べ**2倍以上**
- ✓ 医薬分野のリードタイムは機材やバイオと比べて見込生産で**3倍程度**、受注生産では**1.5~3倍弱**
- ✓ 医薬分野の受注生産はリードタイムが突出しており、**受注残高の多くを占める傾向**

- ステージ別売上では量産ステージの減速が鮮明。限界利益の比較的高い量産品の短期的な顧客側の調整が損益に大きく影響
- 領域別には、機材で在庫調整後の回復基調が継続。量産・開発の両ステージが好調に推移
- 一方、バイオ・医薬の領域は伸びに欠ける展開。特に医薬は量産ステージの失速、バイオは製品構成の差異が損益の足枷に

ステージ別売上比率



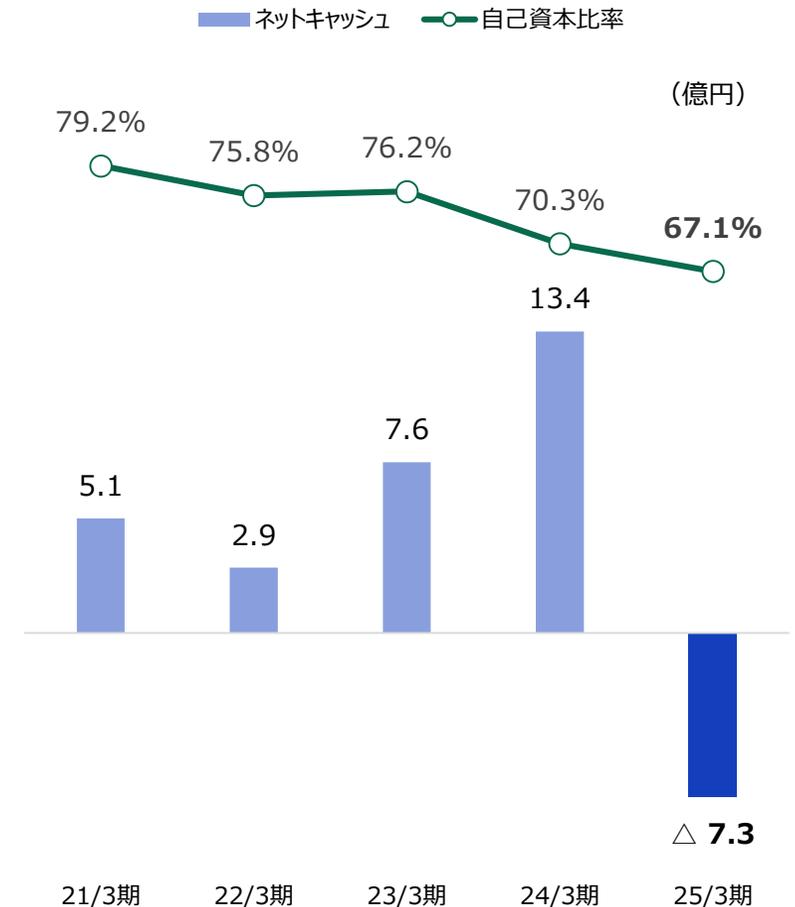
25/3期 業況マトリックス (対24/3期)

	機材	医薬	バイオ
量産	在庫調整 回復基調 継続	前期好調の反動減	堅調
開発	好調	堅調	軟調
研究	堅調	FTE* 堅調	堅調

*FTE : Full Time Equivalent。契約期間内での研究員専属対応

- キャッシュポジションは8期ぶりのネットデット状態に。新規設備投資（出雲第二工場およびバイオリサーチセンターの新棟）に手元流動性圧縮・借入金増で対応
- これら新設備は期末時点では、建設仮勘定として計上。一部投資額は長期前受収益で両建計上
- 自己資本比率は67.1%。緩やかな低下傾向にはあるものの、これはキャッシュを成長投資に振り向けているため。それでも財務基盤は盤石といえる水準を維持

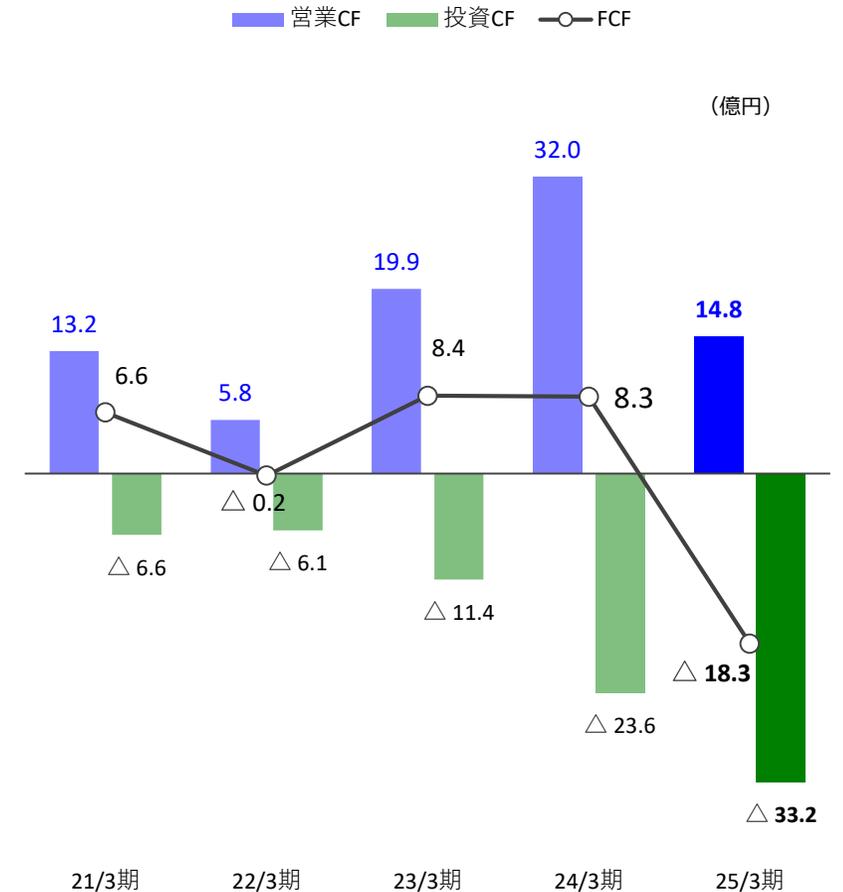
(百万円)	2023/3期	2024/3期	2025/3期	前期末差異
流動資産	7,459	8,558	7,475	△1,083
現預金	2,297	3,311	2,385	△925
売上債権	2,792	2,626	2,407	△219
棚卸資産	2,279	2,518	2,541	+23
固定資産	7,945	10,063	12,676	+2,613
土地	1,847	1,847	2,298	+451
建設仮勘定	8	1,345	3,646	+2,301
繰延税金資産	336	1,151	1,191	+39
総資産	15,404	18,621	20,152	+1,530
負債	3,659	5,534	6,632	+1,097
有利子負債	1,536	1,970	3,119	+1,148
未払金/未払税	1,059	1,699	753	△946
長期前受収益	9	923	1,767	+843
純資産	11,745	13,086	13,520	+433
負債純資産合計	15,404	18,621	20,152	+1,530



- FCFは大幅なキャッシュアウトに。利益の大幅減に伴う営業CFの縮小、大規模設備投資による投資CFの拡大が影響
- FCFのマイナス影響は、財務CFにおいては借入金増で減殺。手元現金残高は2023/3期時点の水準まで圧縮

(百万円)	23/3期	24/3期	25/3期	前年差異
営業CF	1,993	3,204	1,487	△1,717
税引前当期純利益	2,172	2,093	927	△1,165
減価償却費	919	922	879	△43
運転資本増減	△702	△176	281	+458
長期前受収益増減	△3	913	843	△70
法人税等支払額	△377	△870	△1,110	△240
投資CF	△1,146	△2,369	△3,322	△953
固定資産取得	△1,169	△2,368	△3,303	△936
FCF*	847	835	△1,835	△2,670
財務CF	△523	178	909	+730
借入金増減等	△139	433	1,148	+715
配当金の支払額	△271	△254	△239	+15
現金残高	2,297	3,311	2,385	△925

* FCF=営業CF+投資CF で算出



2. 2026年3月期 決算見通し

- 2026/3期は増収、経常減益見通し。受注回復による増収を見込む一方、設備増強等の先行投資負担が嵩み、3期連続の経常減益を想定
- 26/3期は再加速に向けてうまくバトンパスを受け一年と位置付け。既に足の長い医薬領域の受注残は積み上がっており、それらが顕在化するまでにどれだけ加速できるかがポイント
- 特に、量産ステージでは分割販売案件の売上が期初より顕在化の公算。従来通りの4Q偏重構造とはやや異なる展開を想定
- 中期想定で掲げる「高水準の売上成長ピッチ実現への仕組み化」に向けての助走期間となる見通し

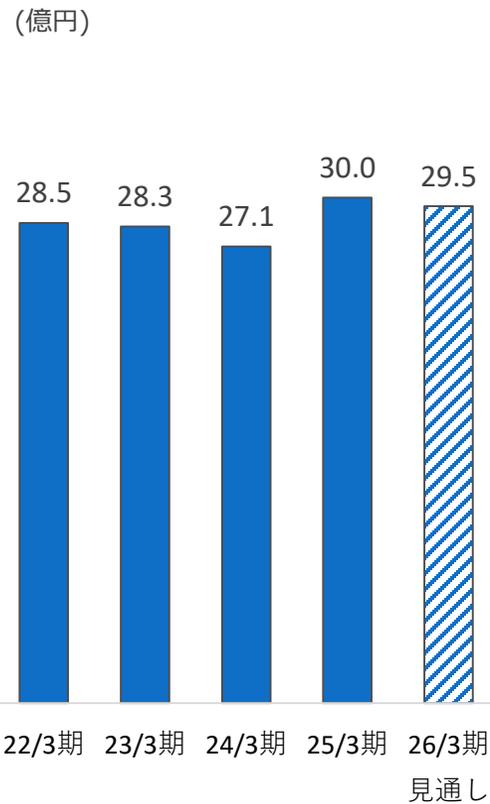
(百万円)	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期 見通し	前年比較	
					差異	変化率
売上高	8,628	9,154	8,178	8,600	+421	+5.1%
機能材料	2,832	2,714	3,002	2,950	△52	△1.8%
医薬	4,259	4,609	3,508	3,700	+191	+5.4%
バイオ	1,536	1,829	1,667	1,950	+282	+17.0%
営業利益	2,163	2,081	771	780	+8	+1.1%
経常利益	2,199	2,094	929	800	△129	△13.9%
経常利益率	25.5%	22.9%	11.4%	9.3%	△2.1%	
当期純利益	1,542	1,493	737	584	△153	△20.8%
調整後EBITDA	2,914	2,867	1,761	1,777	+16	+0.9%
調整後EBITDAマージン	33.8%	31.3%	21.5%	20.7%	△0.9%	

* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

- 領域別には、2025/3期は減収を余儀なくされた医薬・バイオの両領域で増収転換を見込む
- 医薬では前期より引き継いだ分割案件の顕在化が売上水準を底上げ。バイオは大型案件の増加もあり2割を超える増収ピッチを想定
- 一方、2025/3期に気を吐いた機材領域は売上横ばい水準。在庫調整終了後の反動増インパクトは減衰となる見通し

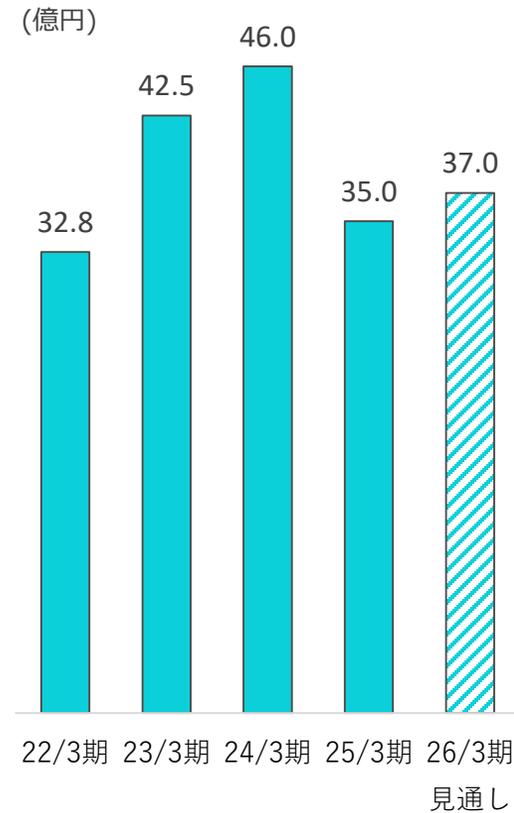
機能材料分野

売上 △0.5億円
対前年比 △1.8%



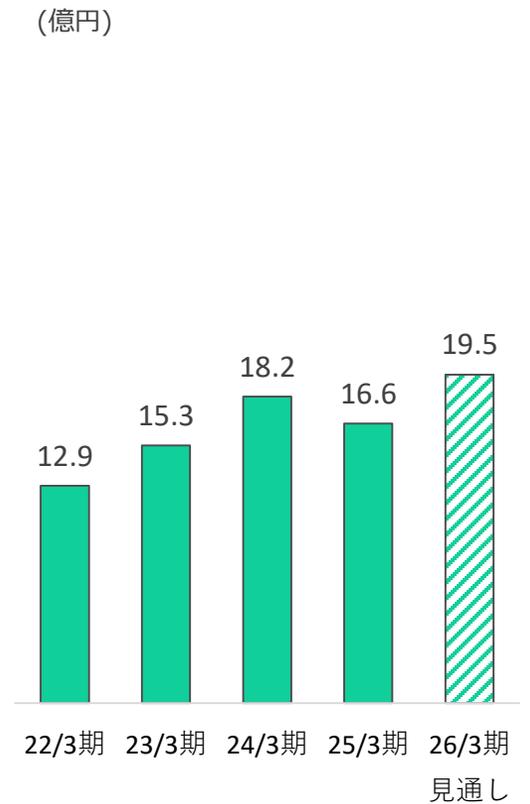
医薬分野

売上 +1.9億円
対前年比 +5.4%



バイオ分野

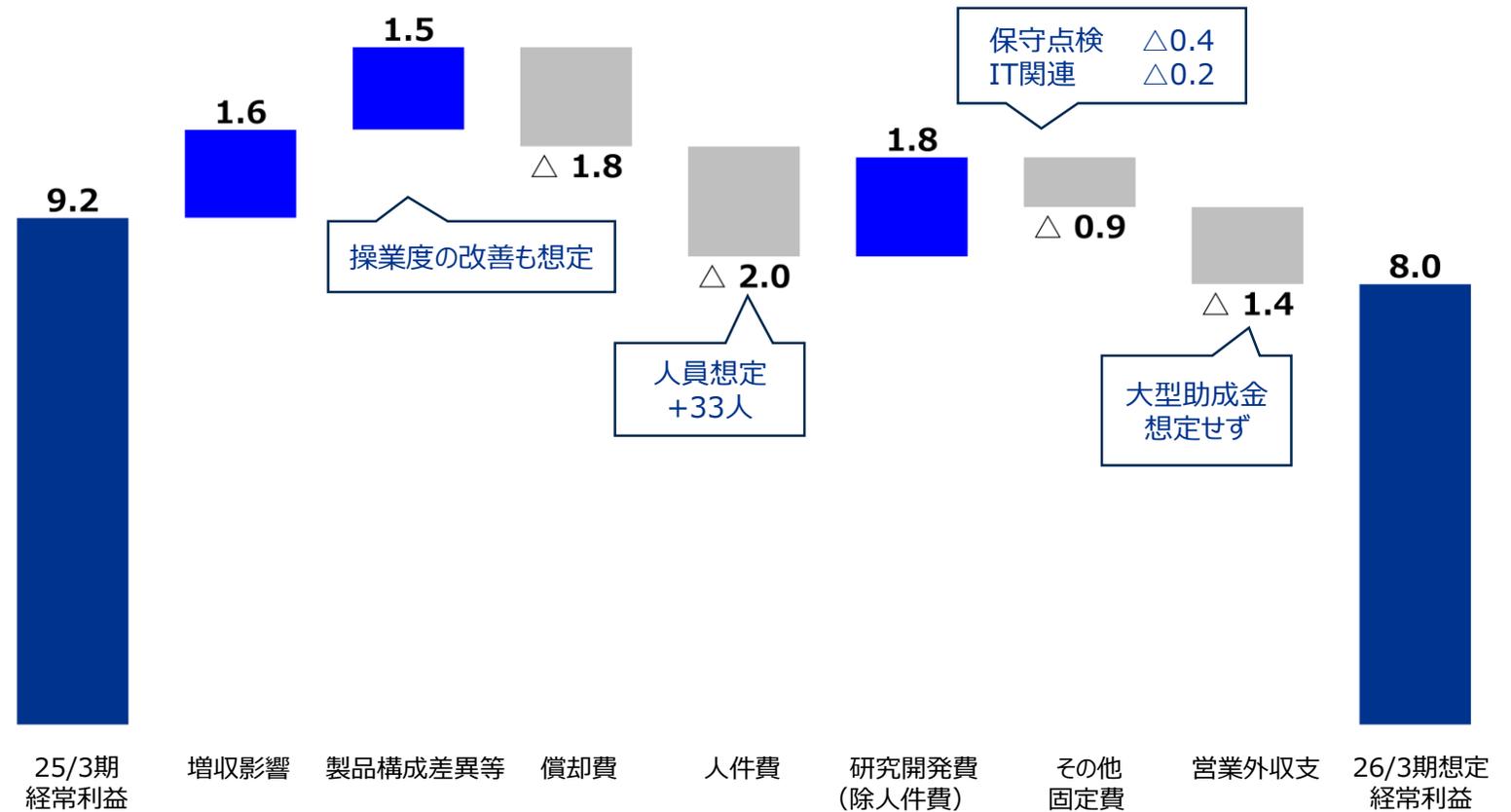
売上 +2.8億円
対前年比 +17.0%



- 経常減益継続の主因はコストの上昇。設備投資完工に伴う償却負担増に加え、生産体制増強に向けた人員増などが重石となる見通し。大型助成金は想定せず
- ただし、トップラインの影響では2期ぶりに増収効果が発現。操業度改善もあり、コスト増のインパクトを大幅に減殺する見通し
- トップラインの回復、成長加速に向けた先行投資という構図は「リレーのバトンパス局面」と認識

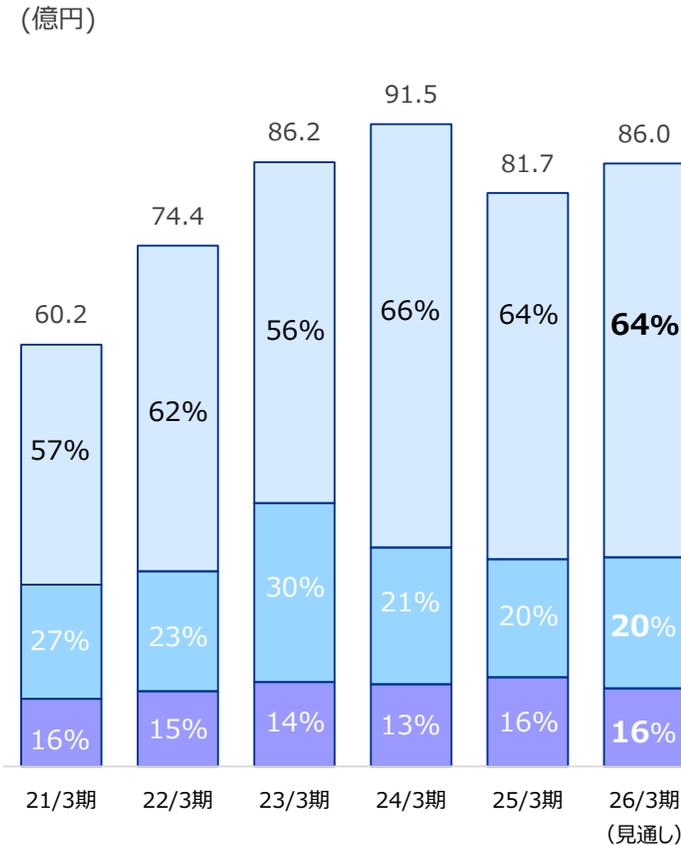
2026/3期経常利益 増減益想定要因分析

(億円)



- ステージ別には、医薬・バイオを中心に量産ステージが回復に転じる見通し。一方、先行的な人員拡充、設備投資による負担が利益を圧迫見込
- 開発ステージも堅調に推移。バイオ開発案件が前年軟調であった反動もあり、26/3期は好調に推移する想定
- 一方、研究ステージはやや苦戦。ただし、医薬領域のFTEなど、次なる成長に向けての布石は順調

ステージ別売上比率



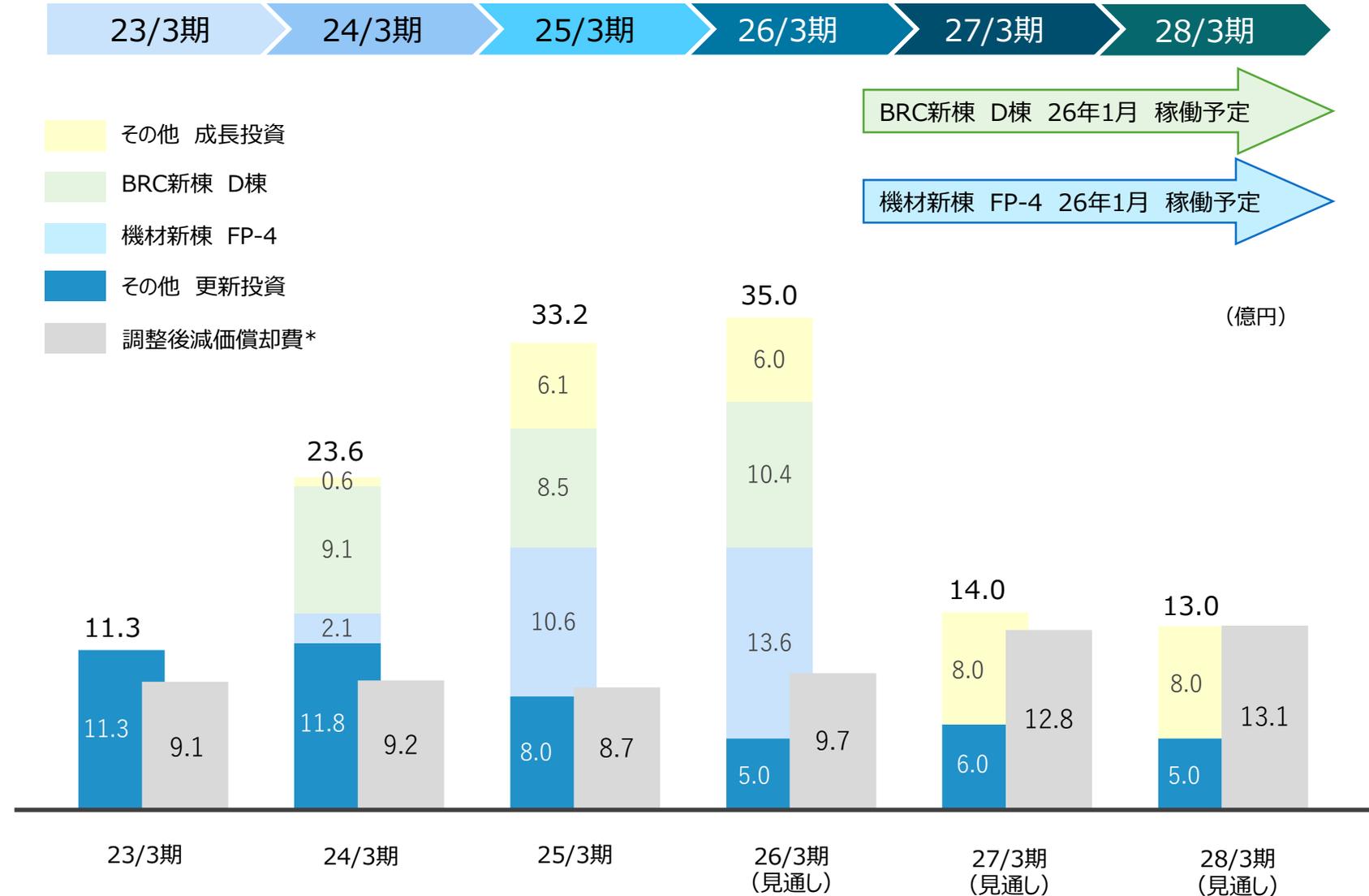
売上業績マトリックス
(26/3期見通し vs. 25/3期実績)

	機材	医薬	バイオ
量産	堅調	好調	新棟稼働開始
開発	堅調	堅調	前年の反動 好調
研究	堅調	FTE* 堅調	堅調

*FTE : Full Time Equivalent。契約期間内での研究員専属対応

設備投資計画

- 26/3期の設備投資は35億円を計画
- 26/3期以降、ボトルネック解消に向けた生産能力強化投資を増加。投資効率を重要視し、生産キャパシティの早期向上を目指す
- 減価償却費は27/3期以降に増加見通し。BRC新棟（D棟）の減価償却費は実質的に発生しないが、機材新棟（FP-4）の負担大
- FP-4の稼働率を早期に引き上げ、売上の上乗せによる増収効果で、減価償却費負担の吸収を見込む

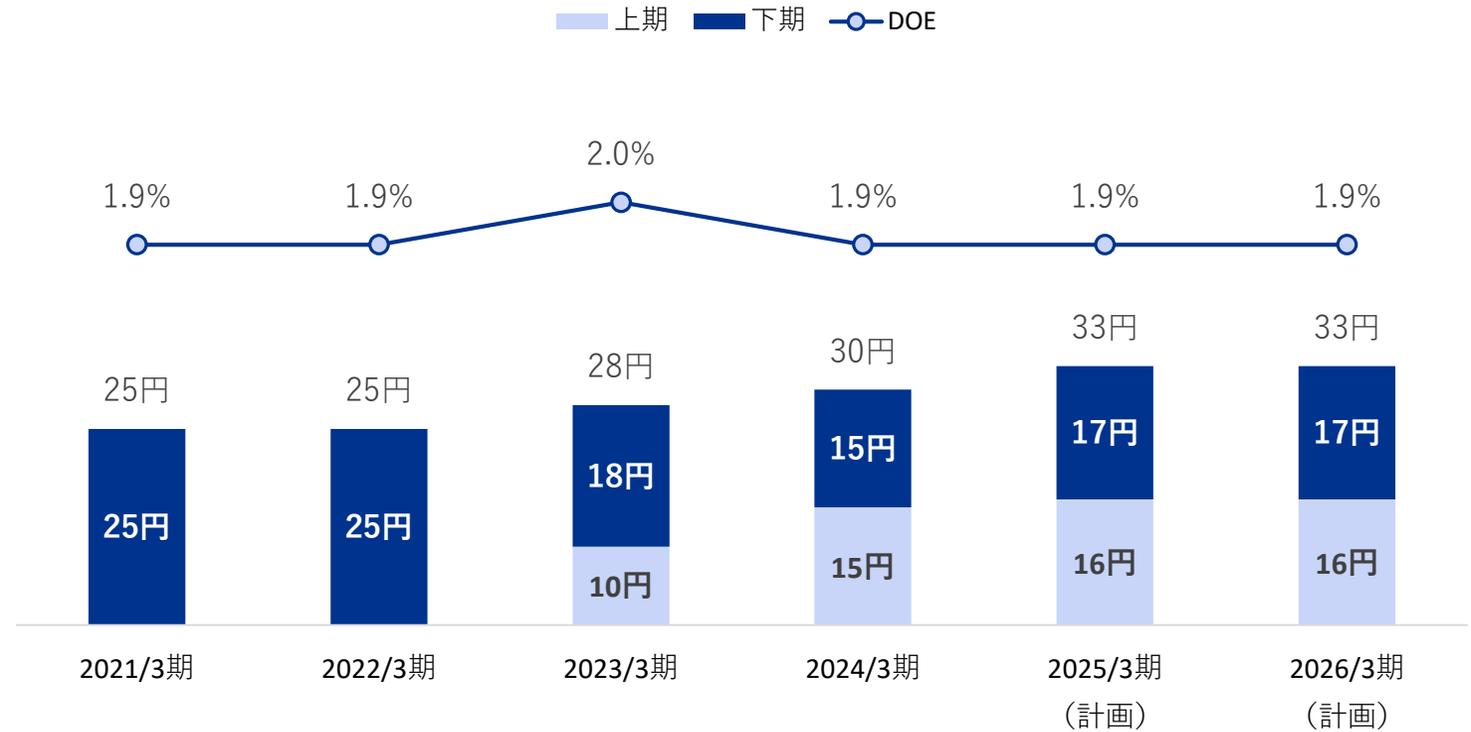


- 2025/3期の年間配当は3円増の33円を計画。期末配は17円
- 2026/3期は年間配当33円据え置きを見込む。経常利益は減少見通しながら、安定配当の継続実施方針を堅持

配当見通し

配当方針

企業価値拡大に向けた投資余力を総合的に勘案し、業績状況に即した安定配当を継続実施



3. 中長期事業戦略（成長シナリオ）

- 将来的に目指す姿
- その実現に向けての戦略 経営課題と対策
- 中長期経営計画

「目指す姿」

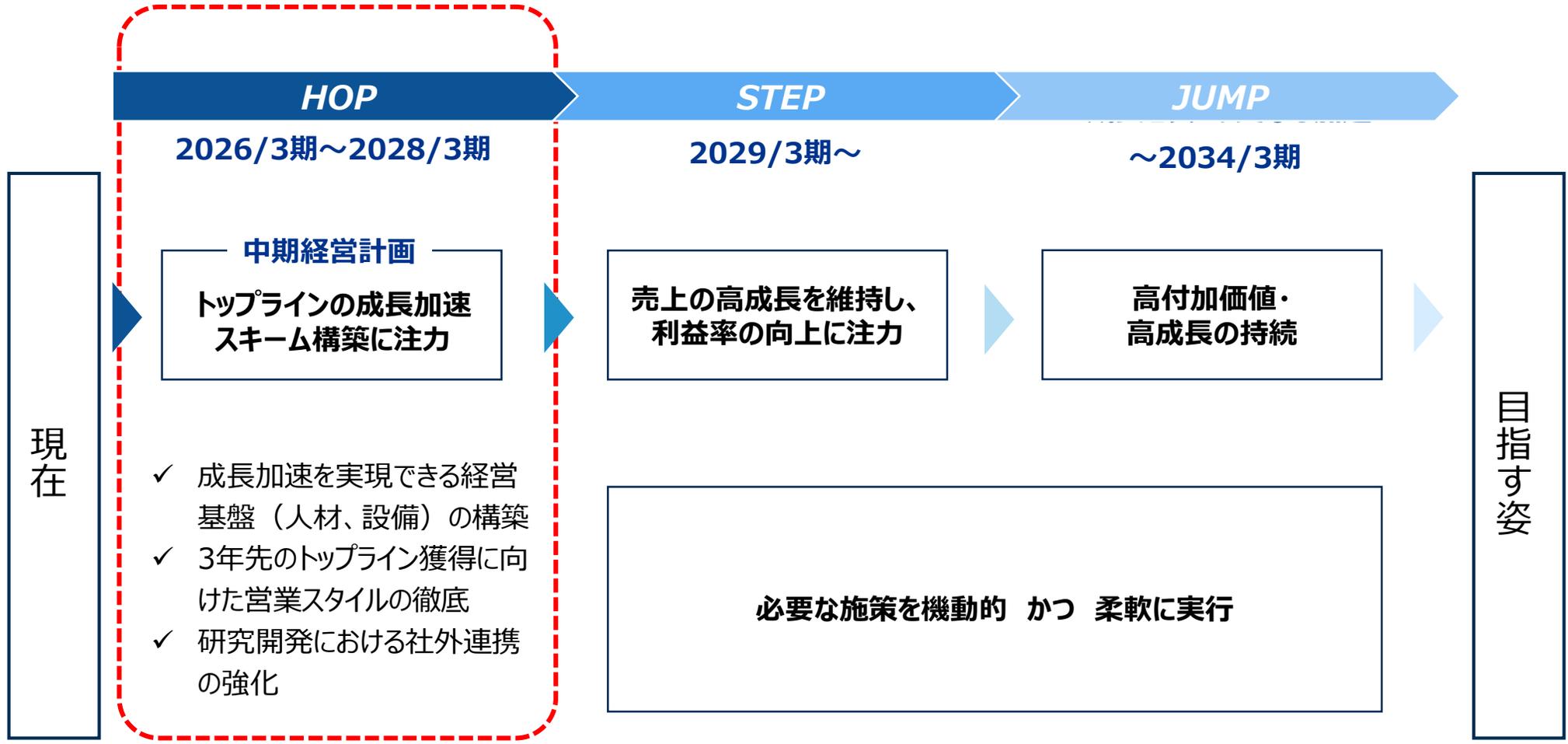
高成長・高付加価値を追求する
化学品製造受託企業

挑戦的な
経営改革



「現在の姿」

有機化合物の研究・開発・量産を
一貫通貫で受託する会社



- 中計ではトップラインの成長加速に注力。過去最高を早期に更新し、CAGRで13%の成長ピッチ定着を目指す
- 同時に利益の最大化を目指す。償却負担増などを勘案し調整後EBITDAマージンを重要KPIに設定。30%超の水準回復を急ぐ
- 中計最終年度のROEは10%程度を想定。更に、その後の次期中計では過去最高更新（14%以上）を目指す

	25/3期 実績		中計最終年度目標 (28/3期)
売上高	81.7億円	 CAGR +13%	120億円
機材	30億円		40億円
医薬	35億円		50億円
バイオ	16.6億円		30億円
調整後EBITDAマージン	21.5%		30%
売上高当期純利益率	9.0%		14%
ROE	5.5%		10%

経営課題	対策	対象領域		
		機材	医薬	バイオ
1. 専門知識を伴った営業力の強化	技術人材投入による 営業部門の強化・拡大	◎	◎	◎
2. 生産能力/生産性の更なる引上げ	急ピッチの生産能力拡大	◎	○	◎
	オペレーションスキル向上	○	◎	◎
3. 変動する顧客ニーズへの対応	他社との提携推進/ グローバル対応/ 高薬理活性原薬対応等	○	◎	○
4. 研究開発から事業化への更なる加速	基礎技術固めに向けた 大手企業との提携等	○	◎	◎
5. 4Q偏重型決算による見通し蓋然性の乏しさ	設備増強による 案件の平準化	○	△	○

経営課題	対策	2026/3期	2027/3期	2028/3期
1. 専門知識を伴った営業力の強化	● 技術人材投入	営業部門員 約2倍 ✓ 既存顧客とのコミュニケーション強化 ✓ 潜在顧客への積極アプローチ 人員増効果の発現 125億円/年の実現		
2. 生産能力/生産性の更なる引上げ	● 生産能力拡大 ● オペレーションスキル向上	生産効率改善に着手	D棟・FP4稼働	稼働率向上により、生産性向上
3. 変動する顧客ニーズへの対応	● 半導体等の低金属対応力強化 ● グローバルGMP*対応 ● 高薬理活性原薬対応等	開発設備強化	FP4稼働 ppb**オーダー 製造実績積上げ グローバルGMP対応の品質保証体制の構築 新規開発案件の取込および出雲工場での量産設備を検討開始 ⇒ステージアップ可能な生産体制を目指す 当社と技術補完可能な企業との提携推進	新規量産案件獲得
4. 研究開発から事業化への更なる加速	● アカデミア/事業会社との提携等	提携／出資案件の積極的獲得		
5. 4Q偏重型による決算見通し蓋然性の乏しさ	● 設備増強による案件平準化	機材領域、バイオ領域の利益貢献拡大		

*GMP(Good Manufacturing Practice) : 製造管理および品質管理の基準

**ppbオーダー : 10億分の1単位での金属不純物管理

狙い：付加価値の最大化と受注機会の積極的獲得を両立

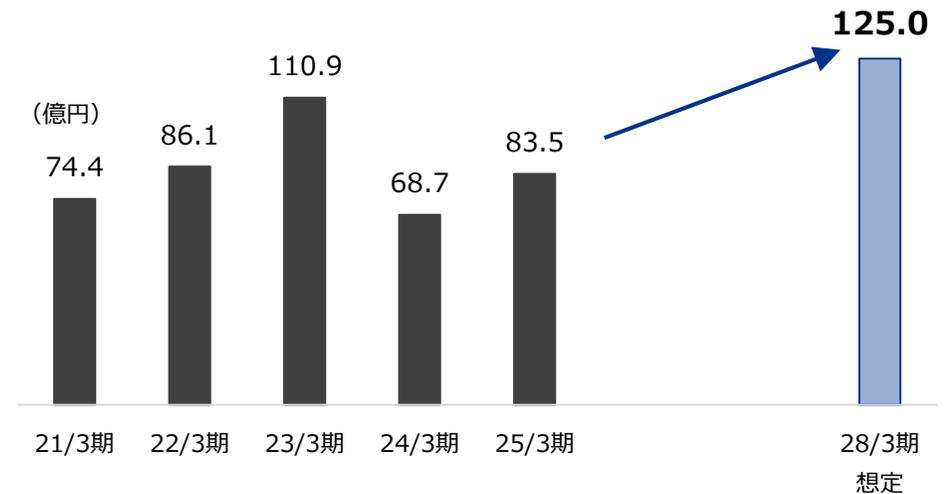
アクションプラン

- 技術人材の営業部門投入：営業部門員約**2倍**に増員
- 受注獲得高を定期モニタリングし、営業力の不足が生じれば、さらなる投入も検討
- 3事業部の状況に応じて人員を割り当てる

想定ゴール

- 年間受注高**125**億円を目指す（2028/3期：過去最高値）

年間受注獲得目標



狙い：受注と両輪を成す生産能力の確保

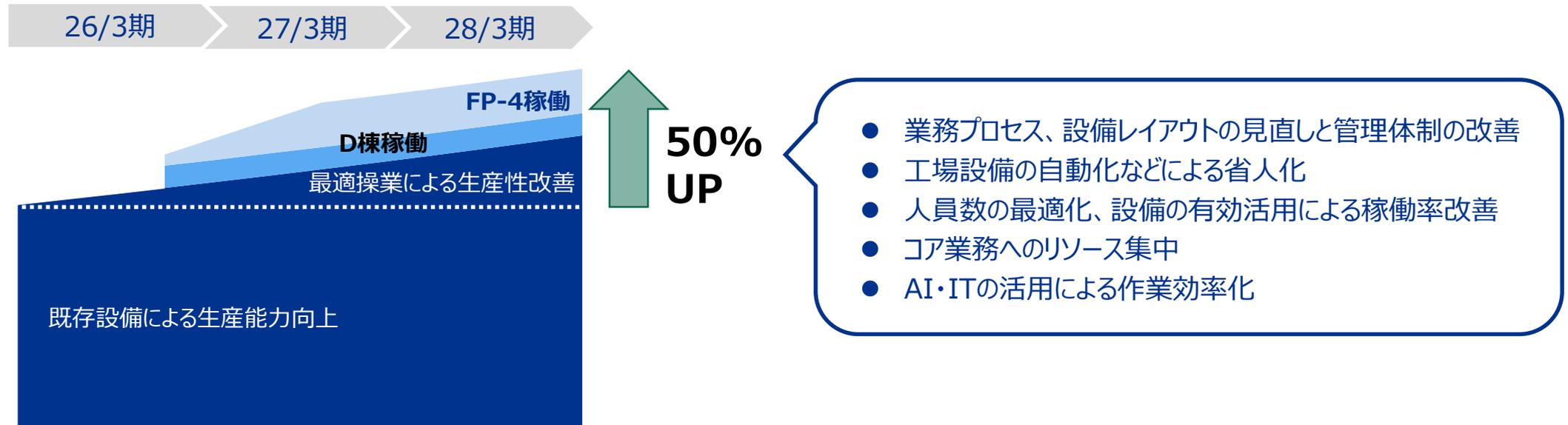
アクションプラン

- 設備投資**55**億円（進行中）
- 業務プロセスの見直し、既存設備の有効利用、設備の自動化
- AI・ITのプロジェクトチームを組んで重点強化

想定ゴール

- 生産能力**150%**アップを目指す
- 1人当たり生産性**20%**アップ（25/3期比）

生産能力の推移



狙い：より高度化する顧客ニーズ対応で付加価値を確保

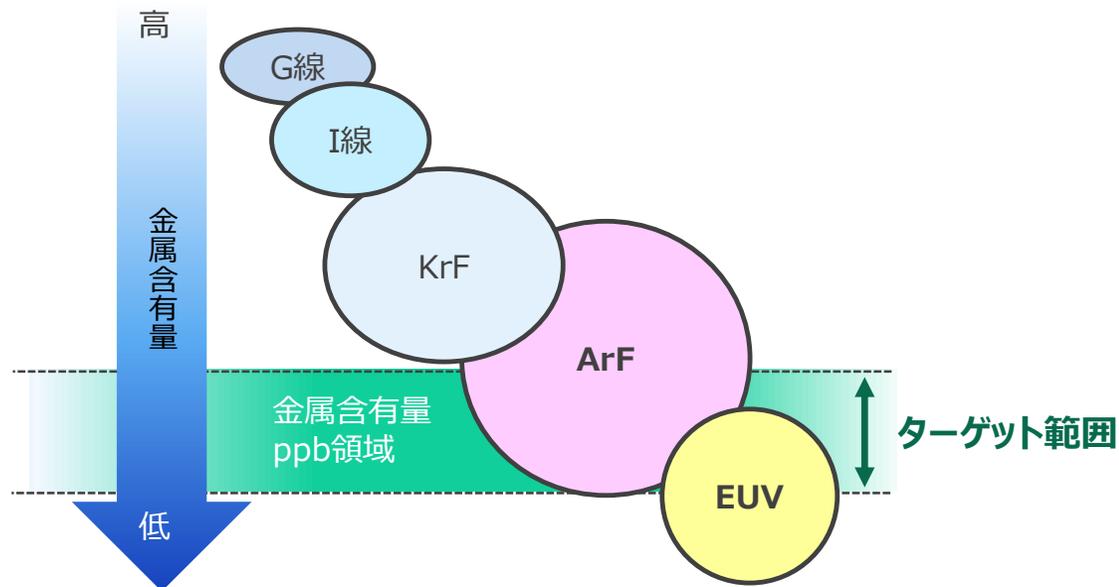
アクションプラン

- 高薬理活性原薬対応の強化と事業化への着手
- 半導体関連材料等の低金属対応力の強化
- グローバル対応GMPへ着手
- 当社と技術補完可能な企業との提携および出資案件の積極受注

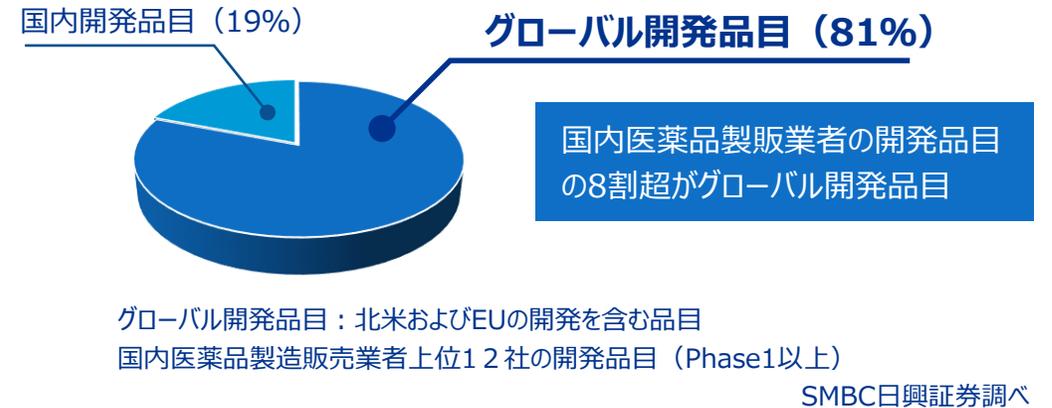
想定ゴール

- 高薬理活性原薬対応案件の開発ステージを獲得
- 半導体向け材料案件の新規量産取込
- 品質保証体制の構築、グローバルGMP下での商用製造

露光別金属含有量許容度（概念図）



開発品目の地域別割合（2024年）



神戸天然物化学株式会社 当社のアプローチ

- ✓ グローバル対応に向けてシステムおよび設備の両面で整備
- ✓ GMP教育訓練強化。専門家の育成

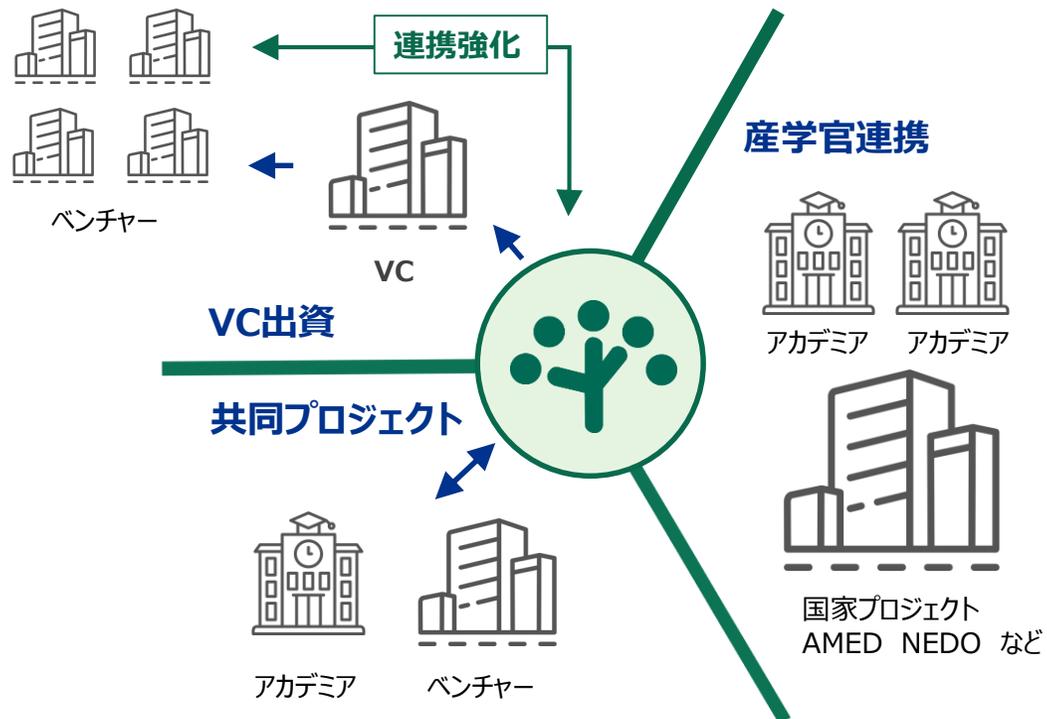
狙い：競争力向上のため研究開発力の強化

アクションプラン

- ベンチャー・アカデミア（大学）との積極交流
- VCを通じた出資案件の獲得による出資先との連携強化
- 共同プロジェクトにバイオ・合成・製造会社のスペシャリストとして参加

想定ゴール

- アカデミア・創薬ベンチャーとのパイプラインの拡充、社会実装
- 次期中計期間での収益化
- 基盤事業の強化および新規事業の探索、ニッチ分野のリーダー企業



参画中プロジェクト

- 千葉大学
「未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点」(AMED)
URL: <https://csimva.chiba-u.jp/>
- 広島大学
「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」(経産省)
URL: https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/bio/vaccine_development/index.html
- 大阪大学
「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
(RNA標的創薬技術開発)」(AMED)
URL: <https://www.amed.go.jp/program/list/11/01/005.html>
- 滋賀医科大学
「タウアイソフォームを標的とした核酸医薬開発」(AMED)
URL: https://www.amed.go.jp/koubo/16/01/1601C_00044.html
- 神戸大学
「KOBE光ものづくりオープンイノベーション拠点施設」(経産省)
URL: <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/announcement/20250425-66622/>

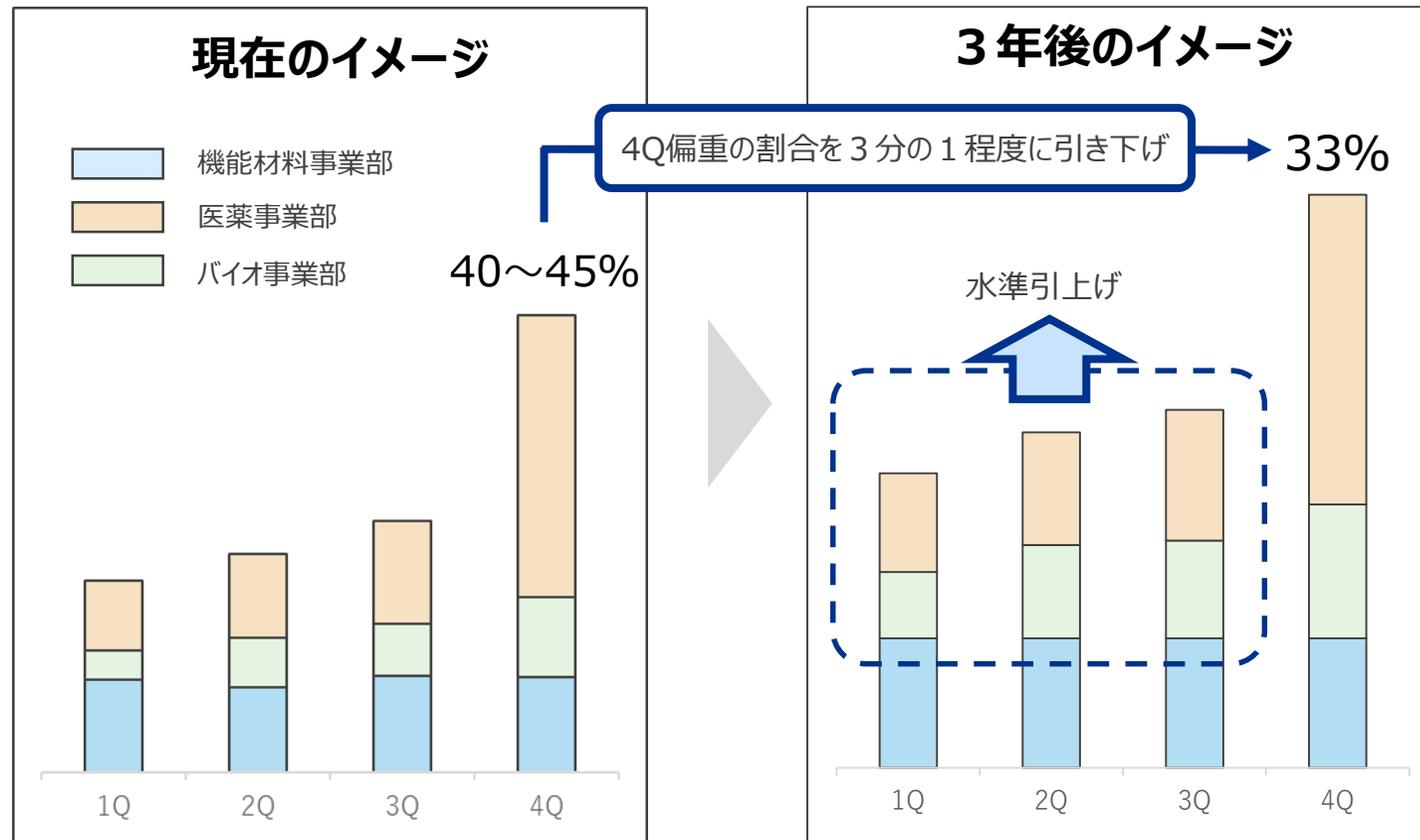
狙い：見通し精度を高め、資本コストを引下げ

アクションプラン

- バイオおよび機材での各四半期売上の底上げ
- 四半期決算毎に概況および当面の感触についてのIR発信機会を設置

想定ゴール

- 経営陣によるIR情報発信機会を4回に引上げ
- 受注残の平均残存納期の開示



医薬事業部

4Q偏重のポイントである医薬事業部は4Q偏重の構造解消に努めるが、顧客事情により管理することが難しい部分が大半

機能材料およびバイオ事業部

四半期の機材事業部とバイオ事業部の売上アップが4Q偏重の売上構造を緩和の傾向

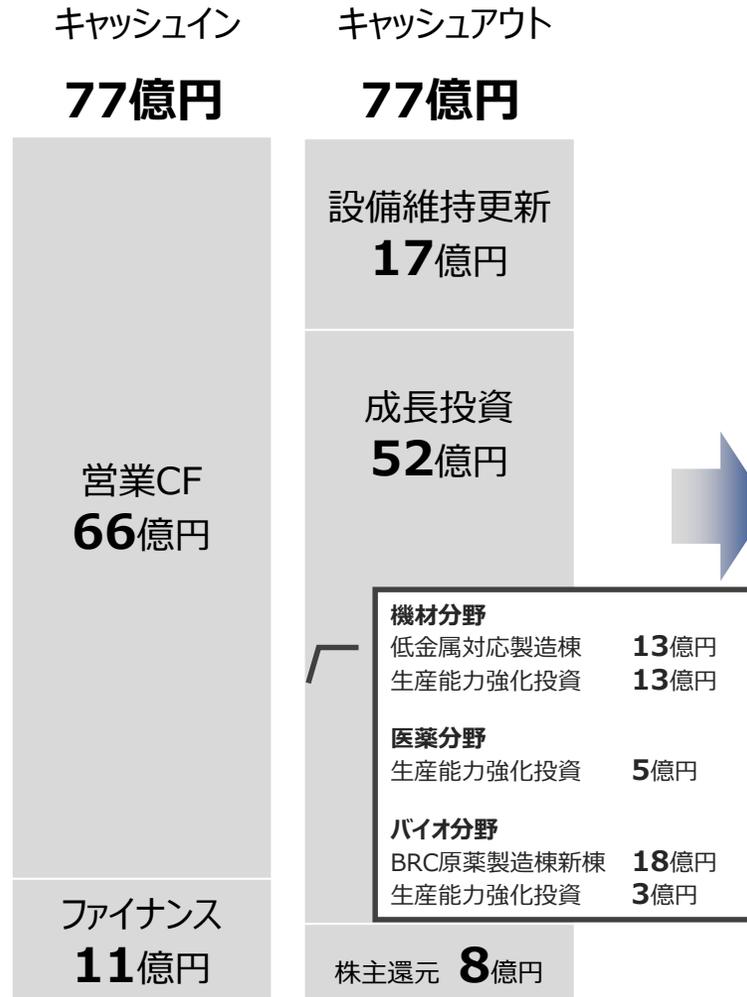
その他蓋然性への補足

4Q偏重の緩和を完全に解消することは難しい。そのため、決算ごとに受注残の平均リードタイムと概況および当面の感触を加えて業績の見通し蓋然性について補足する

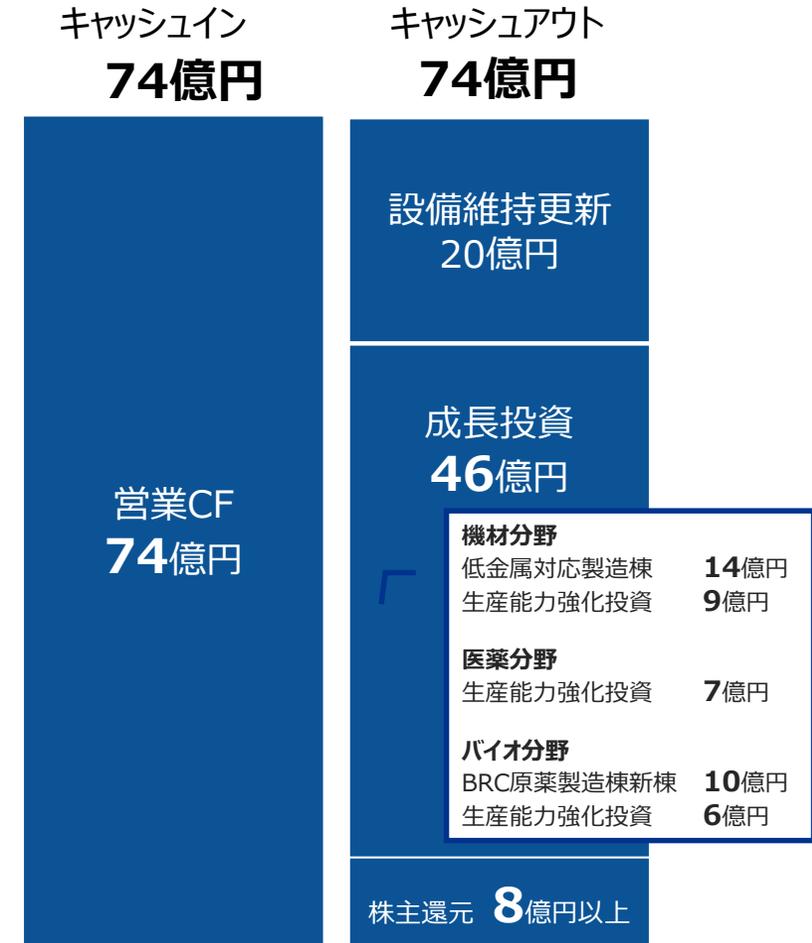
2020/3期～2022/3期



2023/3期～2025/3期

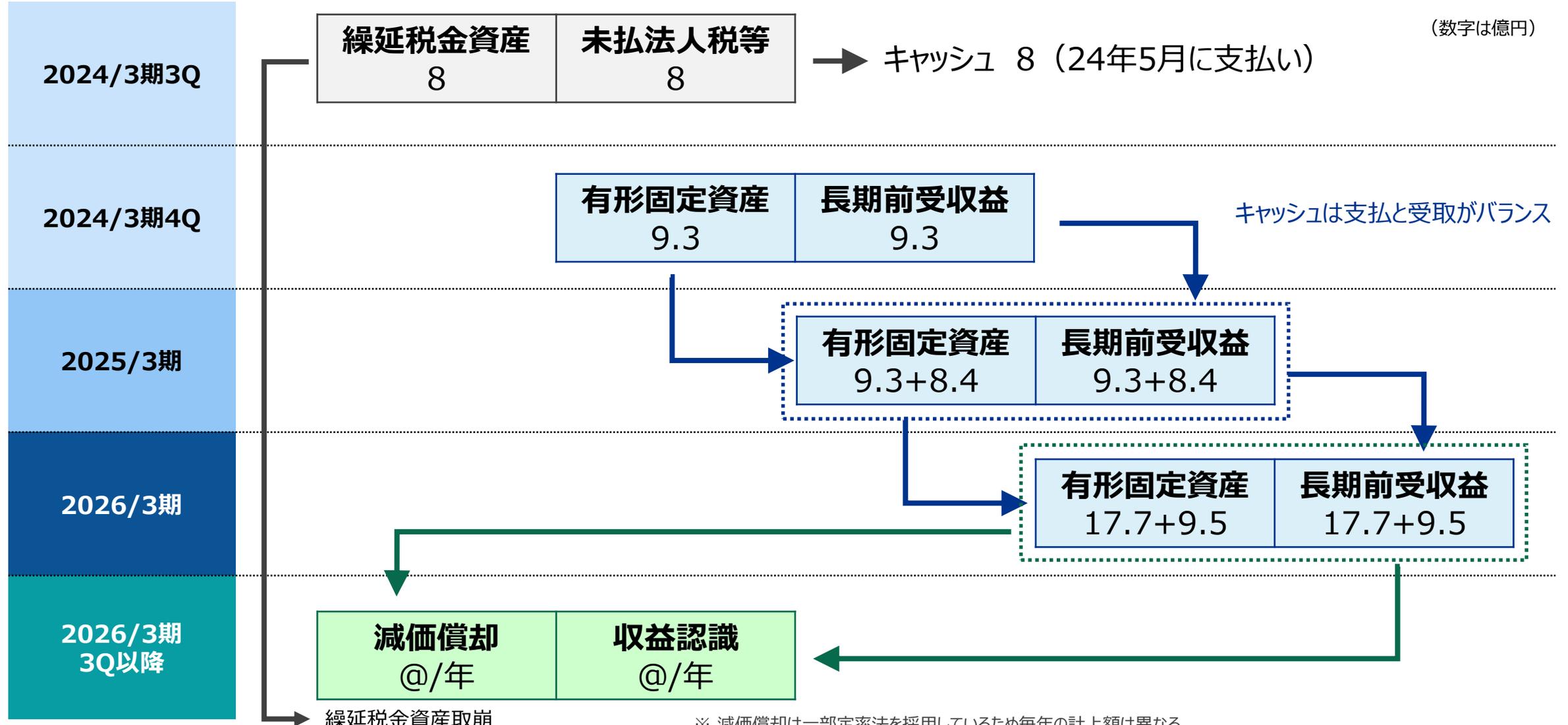


中期経営計画（3年間） 2026/3期～2028/3期目標



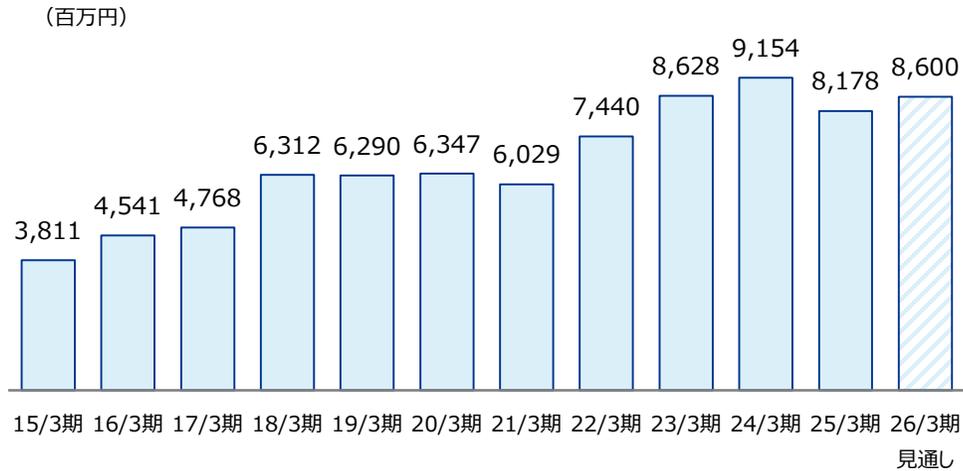
2. APPENDIX

(数字は億円)

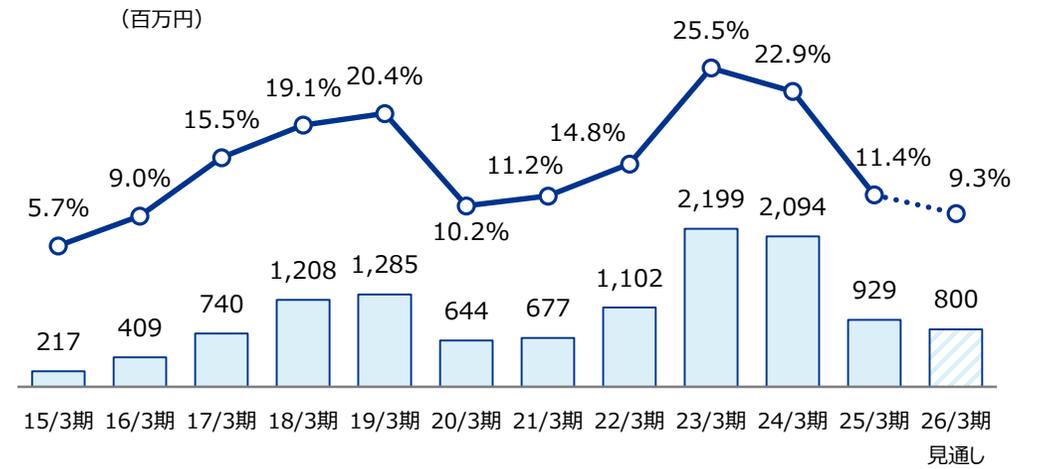


※ 減価償却は一部定率法を採用しているため毎年の計上額は異なる
 ※ 原価の中で減価償却費と同額が長期前受収益から取り崩され、実質的な負担は発生しない
 ※ 上記以外の新棟取得費用も発生見込みであり、その場合も同様に会計処理を実施する

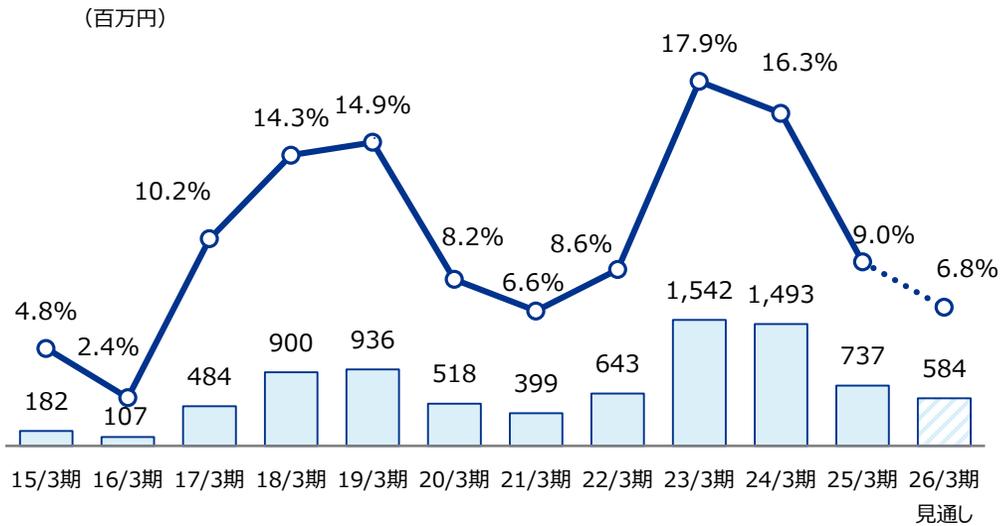
売上高



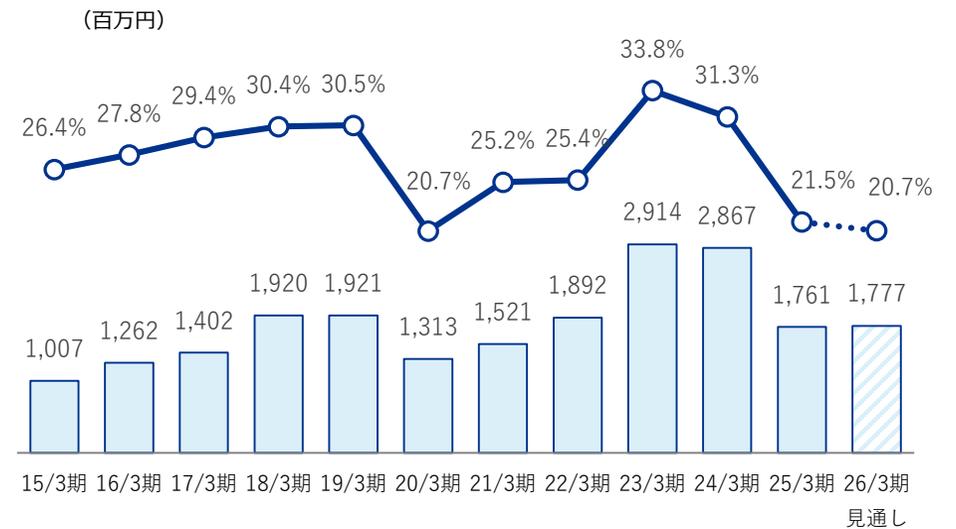
経常利益・経常利益率



当期純利益・当期純利益率



調整後EBITDA・調整後EBITDAマージン



*調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

分野	現時点の成果	研究テーマ	期間	主な共同研究先	競争的資金/事業母体
中分子 (核酸)医薬	特許出願	TDP-43の発現を制御する核酸医薬	2016年度～2020年度	名古屋大学 大阪大学	AMED
	特許出願	タウアイソフォームのスプライシングを制御する核酸医薬	2016年度～2020年度	名古屋大学	AMED
	特許出願	ミオスタチン遺伝子のmRNAの産出を抑制する核酸医薬	2019年度～	神戸学院大学	寄付講座
	特許出願	アンギオテンシン変換酵素2遺伝子のエクソンのスキッピングを誘導するアンチセンス核酸	2020年度～	神戸学院大学	寄付講座
	特許出願	ミオスタチンのスプライシングバリエントを発現させる核酸医薬	2020年度～	神戸学院大学	寄付講座
	特許出願	ミオスタチンスプライスバリエント由来タンパク質によるミオスタチンシグナル阻害とその利用	2020年度～	神戸学院大学	寄付講座
	共同研究	液-液相分離を正常化する核酸医薬によるFTLD治療法開発	2021年度～	滋賀医科大学	AMED
	共同研究	核酸医薬品実用化のための製造及び分析基盤技術開発	2021年度～	大阪大学	AMED
	PJ参画	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業	2022年度～	千葉大学	AMED
共同研究	タウアイソフォームを標的とした核酸医薬開発	2025年度～	滋賀医科大学	AMED	
低分子医薬	特許出願 ジェイファーマ(株) ライセンス契約	LAT-1選択的阻害活性を有する化合物の創製	2011年度～	大阪大学	医薬基盤研 AMED
	特許出願	メモリー型T細胞活性化剤の開発	2014年度～	大阪大学	-
	自社研究	フロー合成法によるプロセス開発環境の確立	2019年度～	自社	自社
バイオ	PJ参画	ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業	2022年度～	広島大学	経済産業省
	ノウハウの蓄積	光合成によるCO ₂ 直接利用を基盤とした日本発グローバル産業構築	2023年度～2030年度	(株)ちとせ研究所	NEDO

* 兵庫県COE:兵庫県最先端技術研究事業, AMED:日本医療研究開発機構, NEDO:新エネルギー・産業技術総合開発機構

- ✓ 当社は大阪大学と共同で創製した、がん細胞に特異的に発現するアミノ酸トランスポーターLAT1 の阻害剤に係わる特許について、ジェイファーマ株式会社との間でライセンス契約を締結しております (2018年3月29日開示)。本発明に関わる化合物を利用した開発状況はジェイファーマ株式会社で以下の通り公開されております。

2025年以降開始予定の
グローバル開発

SLC トランス ポーター	化合物	投与経路	対象疾患	開発ステージ				
				基礎研究	非臨床試験	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
LAT1+ α	JPH034	経口	進行型多発性硬化症					
			グリオーマ					

参照：J-Pharma株式会社 開発パイプライン <https://www.j-pharma.com/developmentpipeline>

項目 (百万円)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高	6,290	6,347	6,029	7,440	8,628	9,154	8,178
経常利益	1,285	644	677	1,102	2,199	2,094	929
当期純利益	936	518	399	643	1,542	1,493	737
調整後EBITDA*	1,921	1,313	1,521	1,892	2,914	2,867	1,761
売上高経常利益率	20.4%	10.2%	11.2%	14.8%	25.5%	22.9%	11.4%
売上高当期純利益率	14.9%	8.2%	6.6%	8.6%	17.9%	16.3%	9.0%
調整後EBITDAマージン	30.5%	20.7%	25.2%	25.4%	33.8%	31.3%	21.5%
現金及び預金	3,072	1,476	1,962	1,973	2,297	3,311	2,385
有利子負債	978	1,428	1,443	1,676	1,536	1,970	3,119
純資産額	9,454	9,827	10,120	10,575	11,745	13,086	13,520
総資産額	12,002	12,770	12,780	13,951	15,404	18,621	20,152
自己資本比率	78.8%	77.0%	79.2%	75.8%	76.2%	70.3%	67.1%
配当性向	20.6%	37.3%	48.5%	30.2%	14.0%	15.5%	34.6%
役員・従業員数	270人	285人	293人	299人	300人	314人	332人

*調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

- 1985 ● 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988 ● 岩岡工場開設（兵庫県神戸市）
- 1993 ● 市川研究所開設（兵庫県神崎郡）
- 2001 ● 出雲第一工場開設（島根県出雲市）
- 2002 ● 神戸研究所開設（兵庫県神戸市）
- 2003 ● 神戸工場開設（兵庫県神戸市）
- 2005 ● KNCバイオリサーチセンター開設（兵庫県神戸市）
- 2007 ● つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009 ● 出雲第二工場開設（島根県出雲市）
- 2013 ● 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
- 2014 ● KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015 ● 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017 ● 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018 ● 東証マザーズ上場
- 2019 ● 本社・神戸研究所開設・移転
- 2020 ● 出雲第一工場内に原薬精製棟を建設
- 2022 ● 東証グロース市場に移行
● 出雲第二工場品質管理棟を建設
- 2023 ● 出雲第一工場立体自動倉庫（W-11）を建設
- 2024 ● KNC バイオリサーチセンター新棟を建設
● 出雲第二工場 機材新棟（FP-4）を建設

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) knc-ir@kncweb.co.jp